

第10号議案

県営農業競争力強化農地整備事業

うした かわよけ ふじおかし うした かわよけ ほんごう

牛田川除地区 藤岡市牛田、川除、本郷

着工年度

平成28年度

評価理由

事業費の増額

1. 事業の目的

藤岡市牛田川除地域は、米麦と野菜(イチゴ、トマト)を中心とした経営規模拡大を望む意欲ある担い手農家が多い。しかし、本地区の農業生産基盤は、小区画・不整形で、農道の幅員も狭く、規模拡大による生産性向上の障害となっている。

このため、農地、農道、用排水路等の農業生産基盤の整備を実施し、生産性を向上するとともに、担い手農家が経営規模の拡大を図るための農地利用集積の促進により、地域農業の維持・発展に資することを目的としている。



小区画・不整形の農地(整備前)



狭小、屈曲した農道(整備前)

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	ふじおかし うした かわよけ ほんごう 藤岡市牛田、川除、本郷	
区分	事業当初	今回
全体事業費	830百万円	1,400百万円
全体事業費増減の理由		①排水計画の見直しによる増額 ②耕土の石礫除去による増額 ③埋蔵文化財が高密度で出土したことによる増額
事業期間	H28~R3	H28~R5
事業内容	区画整理 32.8ha	区画整理 32.8ha

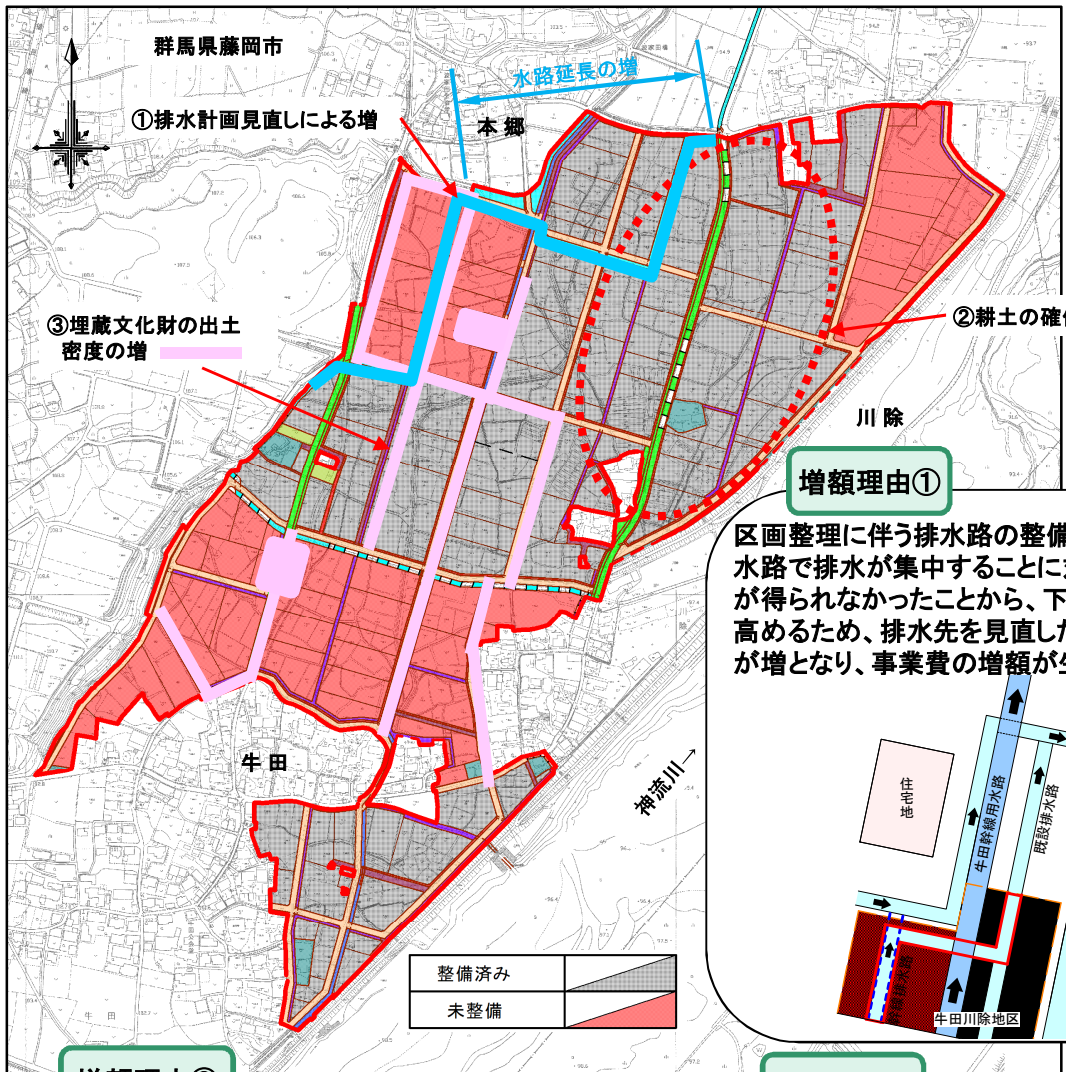
事業経緯

年度	主な経緯
H28	事業採択、実施設計
H29	工事着手
R2	計画変更(予定)

進捗状況

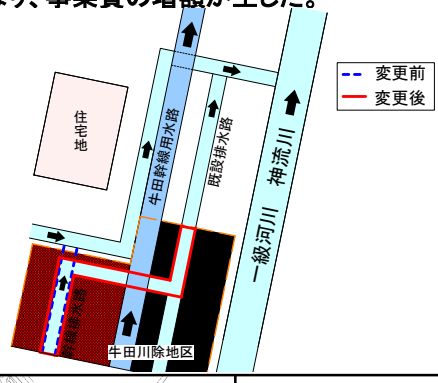
	全体計画	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	1,400百万円	729百万円 (52.1%)
計画面積	32.8ha	15.9ha (48.5%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



増額理由①

区画整理に伴う排水路の整備により、合流先の下流水路で排水が集中することに対し、周辺住民から理解が得られなかったことから、下流集落の治水安全度を高めるため、排水先を見直した。このため、水路延長が増となり、事業費の増額が生じた。



増額理由③

調査の結果、重要遺跡(古代寺院跡)が発見される等、想定よりも高い出土密度で文化財が確認されたことから、調査費の増額が生じた。

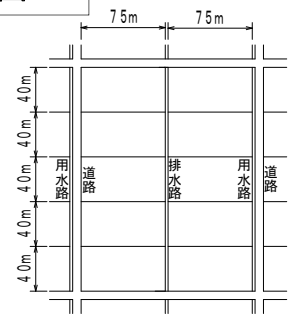


増額理由②

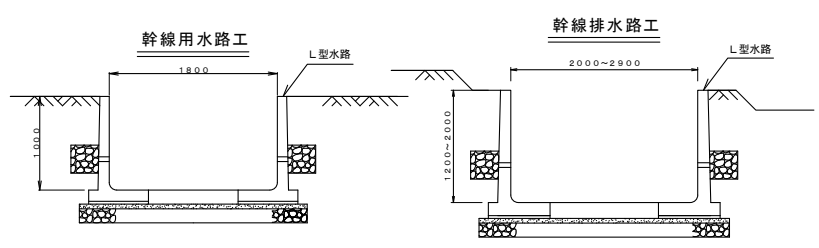
一部の農地で想定以上に石礫が混入していることが判明したため、耕土の入れ替え及び除去が必要となり、事業費の増額が生じた。



標準区画図



標準構造図



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・現状の農業生産基盤の条件では、農業機械の導入が困難なことから非効率な農業経営を余儀なくされ、耕作放棄地の増加が危惧される。
- ・また、今後、農業者数が減少していくことが見込まれ、作付けがされない農地が増加することも懸念される。
- ・以上のことから、①平均5aであった農地を30a区画（標準）の耕作がしやすく貸借されやすい農地に整備すること、②貸借による担い手農家への農地利用集積と高収益作物の導入の促進により担い手を育成・確保することで、地域農業の持続的な発展を目的としており、事業の目的・必要性に変化はない。

	農用地面積	担い手農家 (認定農業者等) 経営面積	集積率	担い手農家数
			(経営面積/農用地面積)	
事業実施前	36.3ha	2.39ha	6.6%	2人
事業完了時(計画)	32.8ha	17.34ha	52.9%	11人

4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- ・整備予定の農地では、大型機械を使用した効率的な農業経営が行われるとともに、農地集積に伴う担い手農家の経営規模拡大が図られることから、安定した経営体による地域農業の持続的な発展が見込まれる。
- ・このため、農業の生産性向上と担い手農家への農地利用集積を促進することを目的とした農地の区画整理は最適な手段である。



農地の状況(整備前)



農地の状況(整備後)

費用便益分析

		前回評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		土地改良の効果算定 マニュアル(H27)		土地改良の効果算定 マニュアル(H27)			
基準年		平成27年度		令和元年度			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	当該事業費用	712,968	84.3%	1,340,377	85.8%		
	その他費用	132,768	15.7%	221,007	14.2%	関連事業費、再整備費等	
費用合計(C)		845,736		1,561,384			
便益 (千円)	作物生産効果	589,879	38.9%	737,604	40.7%		
	営農経費節減効果	340,858	22.5%	385,199	21.2%		
	国産農作物 安定供給効果	378,050	25.0%	447,127	24.6%		
	その他効果	206,325	13.6%	244,203	13.5%	営農に係る走行経費節減効果、 農業労働環境改善効果等	
便益合計(B)		1,515,112		1,814,133			
費用対効果分析(B/C)		1.79		1.16			

5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画

不測の事態により長期化 】

- ・ 区画整理に伴う排水路の整備により、合流先の下流水路で排水が集中することに対し、周辺住民から理解が得られなかったことから、下流集落の治水安全度を高めるため、排水先の変更に係る調整に期間を要した。
- ・ 一部の農地で想定以上に石礫が混入していることが判明したため、耕土の入れ替え及び除去が必要となった。
- ・ 調査の結果、重要遺跡（古代寺院跡）が発見される等、想定よりも高い出土密度で文化財が確認された。

以上の影響により、全体的な工程が長期化していることから、事業完了が令和3年度から令和5年度となる見込みである。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・ 本事業は、農地、農道、用排水路等の農業生産基盤整備を実施し、生産性が向上するとともに、担い手農家への農地利用集積を促進させる。
- ・ 農地整備により、大型機械を利用した農作業の効率化と担い手農家の規模拡大による経営の安定化で十分な事業効果が見込まれる。関係市及び土地改良区ともに計画変更（事業費増）について了解しており、令和2年度に事業計画変更手続きを行う予定である。
- ・ 牛田川除地区は、農業の生産性向上と担い手農家への農地集積の促進により、地域農業の持続的発展を目指すもので、事業の必要性、重要性は高く、早期の効果発現を図ることが適切であり、事業継続は妥当である。

7. 市町村意見

市町村	再評価における意見
藤岡市	当該事業は地元農業者の総意を受けて事業化したものである。事業費負担の増額は協議済みであり、計画どおり事業が完了することを望む。

全体事業費の変更に伴う説明資料

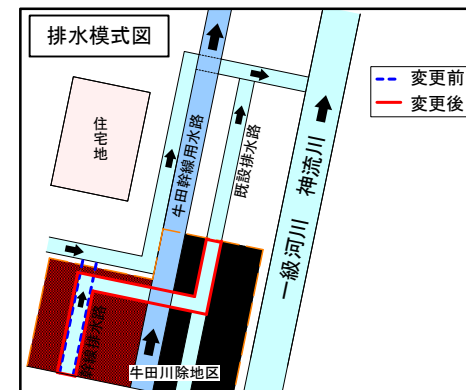
様式6-2
牛田川除地区

1. 計画の概要及び事業費

事業費の構成

【単位：億円】

項目	当初計画	変更計画	増減額	主な理由
本工事費	5.5	8.8	+3.3	水路整備及び石礫除去の増額
測量設計費	1.9	3.9	+2.0	埋蔵文化財調査費の増額
その他	0.9	1.3	+0.4	補償物件数の増加、換地費の増額
合計	8.3	14.0	+5.7	



2. 当初計画(事業費)を変更する理由

(1) 本工事費[+3.3億円]

① 水路整備の増額[+2.2億円]

- 区画整理に伴う排水路の整備により、合流先の下流水路で排水が集中することに対し、周辺住民から理解が得られなかったことから、下流集落の治水安全度を高めるため、排水先の見直しが生じた。このため、水路延長が増となり、事業費が増額となる。

② 耕土の確保及び石礫除去の増額[+1.1億円]

- 一部の農地で想定以上に石礫が混入していることが判明したため、耕土の入れ替え及び除去が必要となり、事業費が増額となる。

(2) 測量設計費[+2.0億円]

- 調査の結果、重要遺跡（古代寺院跡）が発見される等、想定よりも高い出土密度で文化財が確認されたことから、調査費が増額となる。

(3) その他[+0.4億円]

- 換地計画の変更により、道水路用地が確定し、新たに移転が必要となった電柱等の移設補償費が増額となる。
- 基準点測量の歩掛改訂等により、換地費が増額となる。



3. 今回の計画変更の妥当性

- 隣接地権者からの聞き取りや排水系統の検討、市、土地改良区との協議を行った結果、排水先の見直しが必要であり、水路の追加整備は妥当である。
- 事業着手に伴い、詳細に現地を確認し、今後の営農も踏まえ耕土の確保及び石礫除去は妥当である。

4. 事業費の縮減に向けた取組

他部局から発生する公共残土を受け入れ、耕土に利用し、工事費の縮減に努める。

購入土 2,000円/m³ 土量 13,000m³
縮減額 2,000円/m³ × 13,000 m³ = 0.3億円